



新高退通信

No.125

HP : shin-koutai.jimdo.com

mail : shin.koutai@gmail.com

新潟高教組

発行所／新潟県高等学校教職員組合／新潟市中央区川岸町2-11／TEL(265)4151／FAX(231)1036／1部10円
(購読料は組合費に包含)

発行人 吉田 裕史

2016年12月1日
号外

新潟県高等学校
退職者の会

事務局
〒951-8133
新潟市中央区川岸町2-11-4
(高校会館内)

退職者の会専用電話
025-265-1110



山居倉庫を背景にパチリ

2016生涯学習委員会企画 「北前船、西廻り航路起点の酒田、 羽黒山、藤沢周平のふるさと 鶴岡をたずねる旅」

庄内地方は、庄内平野を中心とした山形県の日本海と朝日山地に挟まれた沿岸平野地域である。廃藩置県により大泉県となったあと、酒田県や鶴岡県への改名を経て、1876年に山形県に編入された。隣県でもあり、すでに訪れた会員も多かったが、酒田、鶴岡とも見所満載で1泊2日ではその一部を見ることができたのみであった。当日は、参加者17人を乗せた観光バスが新潟駅南口を9時に出発、途中2度の休憩を取りながら、「とびしま」航路の港に到着、昼食は銘々でとり、日和山公園、城輪柵、旧青山本邸、本間家旧本邸、旧鐘屋、山居倉庫と見学し、宿の「かんぼの宿酒田」に入った。

10月12日9時新潟駅南出發す。
【曇天下マイクロバスは爽やかに】
参考に読破した書籍30数冊。
【灯火親し木村代表名ガイド】
天気目まぐるしく変わる。
【ワイパーを急かす急襲秋の雨】
【秋日さし翡翠に変わる海の色】
【鼠ヶ関越えて温海は風の秋】
いよいよ酒田に入る。
【秋陰を映し波立つ最上川】
日和山公園に着く。
【新米の光に似たる蔵の跡】
【色変えぬ松を背に瑞賢像】
【レガシーを守る常夜燈小鳥来る】
【飛鳥は風車の向こう秋澄めり】
松籟激し。野口雨情の歌碑あり。
的確かつ詩的な表現に舌を巻く。
米ぢや庄内 港ぢや酒田
日和山まで 船が来る。
バスは市街を抜け穀倉地帯へと。
【鳥海山に日の当りたる豊の秋】
城輪柵跡は広々とした平野の中に

第1日の旅行記は橋爪さんをお願いした。参加人数の「17」にあまり、俳句調でまとめたのと。(内山)



日和山公園の河村瑞賢像

あり。「きのわのさくあと」で日本歴史大辞典に載っているが、酒田市のパンフレットには「きのわさくあと」とルビがふつてある。

【草は実に抽斗開けて取るパンフ】
旧青山本邸は明治の屋敷である。

【留吉の錦を照らす庄内柿】
単身で渡りニシンで財をなす。市街へもどる。まず旧鑑屋へ。

【ペコちゃんの如おしん居る秋日向】
鑑屋は西鶴の日本永代蔵に登場。

【身にしむや御内儀描く一くだり】
徒歩にて本間家旧本邸へ。

【四百年赤松手入れ怠らず】
【金風や初代開きし新潟屋】
山居倉庫は今も活躍中である。

【樺並木つるべ落しは雲がくれ】
【夕暮れの葉影逃さぬ秋の壁】
宿に到着。やがて晴れて月皓皓

【レモン月浴びて美肌に露天の湯】
飲み放題の宴となる。

【闊達の気風腑に落つ古酒新酒】
橋爪真由美（上越支部）



かんぼの宿「酒田」の前で

第2日、小雨の中、羽黒山トレッキングに向かう。参道入り口の随神門から出羽三山神社のある山頂までおよそ2キロ、60分の行程である。始めの継子坂を下ったあと、長い登りの参道は2446段の石段が続く。高齢者のため時間設定を90分にしたが、皆健脚でほぼ予定通りにトレッキングを完了する。

このあと鶴岡市街に向かい、午後の見学となる。致道博物館、藤沢周平記念館などの市内研修班とクラゲの展示で有名な加茂水族館を見学する班に分かれ、それぞれ昼食をとった後見学に移る。第2日の旅行記は星野さんと阿部さん

鶴岡から羽黒橋を渡り担々たる庄内平野を横切つて、羽黒街道が羽黒丘陵にかかる景勝の地に、東北第一を誇る高さ20mの両部の大鳥居があります。約2kmくらい進むと手向集落があり、宿坊が連なる町並みが羽黒山表参道の随神門まで約1kmに渡つて続いています。

随神門より内は出羽三山神社の神域となります。参道は初め下り坂となるが、この坂は随神門より羽黒山頂に至る表参道中、ただひとつの下り坂で継子坂の名があります。参道の樹齢300年、600年に到る老杉の並木を通ると、

◆ 出羽三山講について

民衆に信仰を広めていく役割を担ったのが宿坊の先祖、妻帯山伏でした。はじめは各地の清僧山伏（妻を持たない）と、またその弟子末山伏（全国各地にいる羽黒派の山伏）が布教活動し、参拝の先達をしていました。各地を回る妻帯山伏は貧しい地域に田畑の開墾や養蚕を広めたりして地方の生活の向上といった面でも手助けしてきたという話が今でも伝えられています。

◆ 相撲史に残る大横綱羽黒山関の四股名の由来について

羽黒山の生まれ故郷、旧西蒲原郡中之口村は羽黒山の修験山伏が開拓し、羽黒山にあやかつて「羽黒村」と名付けたそうです。後にこの村の総鎮守として羽黒神社が建立され、横綱羽黒山の力士名が生まれました。昭和20年7月15日、羽黒山花祭りに合祭殿の正面で羽黒山関の豪快無比力感あふれる、不知火型土俵入りが行われましたが、私は小学校1年生で、初めて見て驚いたことを覚えています。

このコラムも星野さんの原稿です。

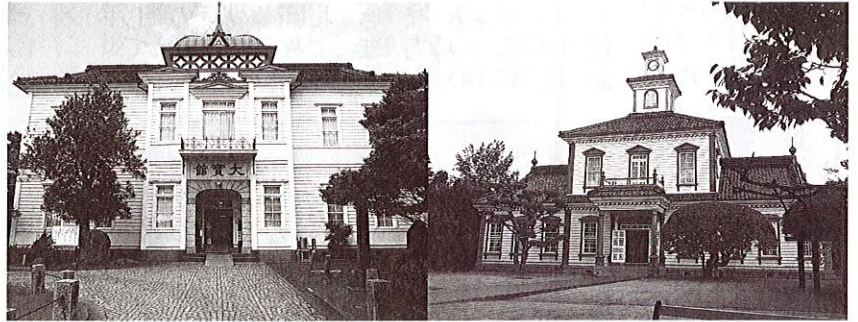
まもなく一の坂登り口の杉並木の中に羽黒山五重塔（国宝）があります。東北地方では最古の塔と言われ、平将門が平安中期に建造したと伝えられていて、昭和41年に国宝に指定されました。一の坂を過ぎると昔から油こぼしと言われている急な坂、二の坂になります。登りきつたところの茶店ではしばし休憩を取ることになりました。各自それぞれ名物の力餅（あんころもち）と茶をいただきました。ここには行きませんでした。三の坂入口から右に折れると南谷の別院があり、芭

蕉が数日間滞在し三山巡
礼句を残しています。

随神門から徒歩50分
で山頂に建つ合祭殿に着
きました。山頂に立つ合
祭殿は、月山、羽黒山、湯
殿山の三神を祀る豪壮な
建物で昔から月山、湯殿
山は冬期間積雪のため登
拜できないことから羽黒
山に三神を祀ると伝えら
れていました。今も山岳
信仰が息づく出羽三山、
羽黒山が「現在」、月山
が「過去」、湯殿山が「未
来」をつかさどり、三山
をめぐることで新しく生
まれ変わると言われてい
ます。私たち一行は羽黒
山頂まで黙々と歩くことにより森
羅万象を受け入れ、浄化を感じる
山伏の体験をしました。

星野 勤 (柏崎支部)
班別研修 (鶴岡市内班)

まず私たちは昼食のため、公園
の内堀近くにある「ほりばた食
堂」という店に入りました。この
食堂は、富樫さんと私の母校(鶴
岡南高校)の前にあり、60年ぶり
に店の暖簾をくぐりました。注文
したラーメンの味は当時のままで



鶴岡市内の大寶館(左) 致道博物館(右)

びっくりしまし
た。

庄内藩の城下
町であった鶴岡
の中心部には鶴
岡城址公園があ
り、周辺には藩
校致道館をはじ
めとした歴史的
建造物が集中し
ています。私た
ちは最初、日本
を代表する時代
小説の名手、藤
沢周平の文学世
界を紹介する
「鶴岡市立藤沢
周平記念館」に
入り、作品に関

連するたくさんの資料等を見るこ
とができました。郷土ゆかりの人
物を紹介する大宝館では、藤沢周
平、芥川賞作家の丸谷才一、直木
賞作家の佐藤賢一など著名な作家
をはじめ、日本主義を唱えた評論
家高山樗牛、相撲史に残る横綱柏
戸剛関などの独創的で気骨の人物
を紹介していました。藩校致道館
は庄内藩主酒井家の御用屋敷だっ
た建物を博物館として公開したも
のです。重要文化財など貴重な歴

史的建築物や庄内の生活文化を伝
える民俗資料などを収蔵展示して
いました。

星野 勤 (柏崎支部)
班別研修 (加茂水族館班)

昼食は「庄内物産館」、美味し
い海鮮料理をごちそうになり、お
土産も買うことができました。
加茂水族館の見学はまず淡水魚
コーナーからはじまります。昔遊
んだ川の、懐かしいヤマメ、イワ
ナ、カジカ、コイ、アユ、タナゴ
などのお出迎えです。海水魚コー
ナーでは「カワイイ！」の黄色い
声、何が？ ホテイウオの稚魚で
す。直径1・5cmほど、まるまる
してひれの動きが早く、思わず笑
顔になる可愛さ。と、隣のエビ、



加茂水族館を訪れたメンバー

カニの水槽の前で「うまそう！」
とどこかで聞いた声です。

アシカショーは、カリフォルニ
アアシカの手を振つての挨拶で始
まります。輪投げのキャッチ、フ
リスビーの受け投げ、ボールなど
のバランス芸、お決まりのジャン
プ、かわいい動作は平均年齢70歳
超の、ほぼ満員の観客に笑い声を
プレゼントしていました。

水族館メインのクラゲコーナー
です。多くは白色透明です。大中
小さまざま、色のバリエーション
が豊かです。ピンクで可愛い深海
クラゲ、触手についても長いもの、
刺激で発光するもの、木の枝のよ
うなもの、触手のないものなど。
でもほとんどに毒があるそうです。

直径5mの水槽の中でゆらゆら
揺れるミズクラゲが心を癒し、大
きな感動を与えてくれました。
また、屋上ガーデンはウミネコ
の餌付場です。青い空の下、ウミ
ネコの生態はなかなか見られない
体験でした。

阿部美智子 (新潟支部)

班別研修を終えると、バスは一
路新潟を目指した。途中2カ所の
休憩を挟み、予定通り19時に到着
有意義な旅を、全員無事に終える
ことができた。

2016 地公3単産・地公退高齢者集会
記念講演「TPP参加で日本はどうなるか」

「TPP参加は国家存亡の岐路」

元外務相アジア国際局長 孫崎 享

孫崎さんは、「TPP」問題のほかにも、自らの豊富な経験、知識をもとに「日米安保、集団的自衛権、戦争法」などについて多くの時間を割いて話されたが、ここでは、TPPに関する部分の要旨を紹介する。



孫崎 享さん

入省してから多くの歴代首相のもとで仕事をしてきた

ましたが、安倍首相はどうしようもない、ひどいの一語に尽きます。原発がその典型的な例で、まちがっていても気にしない、嘘をついても平気でいられる。安倍さんには「最大多数の最大幸福」、「国民のための政治」という理念・信念が欠けています。

臨時国会の所信表明演説で、アメリカ大統領選でのトランプ、クリントン両候補が反対している「TPPの早期発効を大きなチャ

ンスとして：農政新時代」をめざすと述べていますが、TPPは財界のためになっても、国民の利益をもたらすことにはなりません。TPPには、これまであまり触れられてこない「核心」があります。それは、アメリカの産軍複合体で日本の国家主権が脅かされることになり、国家存亡の危機に直面するということです。

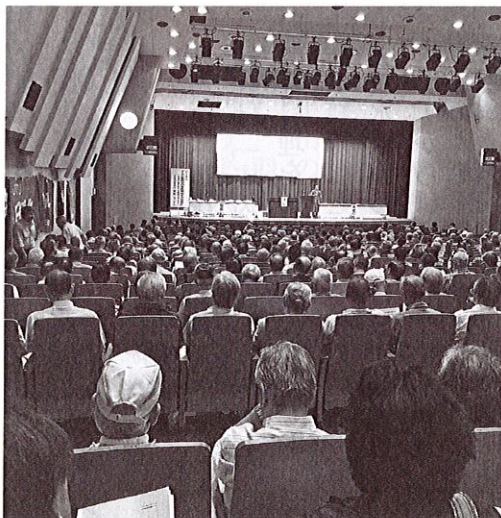
「参加しないと日本は世界の孤児になる」(米倉経団連会長)、「《第2の開国》を実現する」(菅元首相)、「今年こそ、(農業)改革を」(マスコミ各紙)などの言は、TPP差し止め訴訟・違憲訴訟をどのようにとらえ、考えているのかわかりませんが、TPP推進の詭弁に過ぎません。

TPPには、「企業が一方的に国家を裁判に引きずり出すことができる」という危険なISD(投資国家紛争処理)条項が盛り込まれています。

企業の投資によって、「想定外の利益がえられなかった」ことが起こった場合、企業は投資先の国家を国際投資裁判所(裁判内容は非公開です)に引きだすことができます。裁判所のシステムは企業勝訴となつていきますので、「想定外の利益」の可否を判決の基準とする裁判所が国家の上に立つということになります。

バシテンフォール社(スウェーデン)は、原発ゼロ政策へ方針を転換したドイツ政府に、方針の撤回請求と、原発ゼロから想定される損失を約9000億円と計算して損害賠償を請求しました。

こういうことがまかり通ることになると、原発反対運動もISD条項によって提訴されることになる



高齢者集会
9.27 日教組会館

ります。広範囲の分野でそのようなことが起こってくることになれば、憲法での諸権利は無きに等しいものとなるに違いありません。安倍さんはアメリカとの同盟強化に力を注いでいますが、ほんとうにアメリカが日本を守ってくれると思つてるのでしようか。日本がことあるごとに強調している中国の脅威が現実となった時、アメリカは日本を守れないというのが軍事力での現実なのです。

軍事力増強ではなく、外交による解決を目指すべきです。日本のマスコミの信頼度は低下し、世界で72番目となっています。NHKの「クローズアップ現代」でのわたしの発言が官房長官の怒りに触れ、わたしはNHK出入り禁止となりました。マスコミは、通常はまともですが、ここ一番となると変節します。日本には「メディア信仰」がありますので、その影響力を考えるにつけて、日本はどのような方向へと進んでいこうしているのか、不安、危険な思いで

います。
(木村昭雄)

福祉厚生委員会企画 第23回福祉学習講座

3・11東日本大震災・東電原発 事故からの避難者に聞く

お話 磯貝潤子さん

9月29日、高校会館3階会議室において、福島から避難され「市民連合@新潟」共同代表、「安保関連法に反対するママの会@新潟」有志として活動されている磯貝潤子さんに、原発事故と向き合ってきた郡山での生活と避難されたいきさつを語っていただきました。

(福祉厚生委員 剣美美子)

私は郡山市から震災の1年後、2012年4月に新潟市西区に避難してきました。震災前は政治や原発など新聞をよく読まない、体を動かすことが好きで自分の好きな生き方をして年をとっていいんじゃないかと思っていました。そして念



磯貝潤子さん

願のマイホームを建て、ちやうど子供が4年生と5年生の時に震災にあ

いました。2011年3月11日午後2時46分、アパレルの洋品店で働いていた私は、お客様と外に出たのですが、津波が来るらしいよという話を聞きました。結局帰宅したのは夜8時で、心配だった子供たちは校庭に避難して「真っ先に迎えに来たのはパパだったんだよ」と言っていました。家では電気水道も大丈夫で、冷蔵庫には食料もあったので、テレビの映像見ながら助かった自分たちは何と運がいいのだろうと思いました。そのうち原発が大変な感じになっていて、情報では水素爆発って言うていましたね。14日の夜、「雨が降るから子供を外に出さないように」というメールがPTA会長から流されてきて、副会長の私は知っている友人にそれを送りました。15日の雨には子供たちを外に出しませんでしたが、窓に目張りもしないで放射能が漂う中に

子供と出ていたのかも今思いますが。そして、どうせ避難しても学校が始まれば戻ってくるのだからと、避難しませんでした。

4月になって学校が始まると子供たちは集団登校で徒歩で通い始めました。当時私は「3マイクロに下がったからよかったね」と子供たちに言っていました。通常なら0・2から0・3マイクロシールでもギリギリの数値だから、いかに高い数値だったか。しかし事故当初10から20マイクロあると聞いていたので、すごく下がったかと思っていたんです。子供たちは30分かけてその中を通学して、足の裏の皮がポツポツと剥けてきて、医者に連れて行っても「なんだろうね皮膚炎かな」と言われるだけ。新潟に来てからはそうなりません。おそらく靴の裏や靴下についた放射能が足の裏を攻撃した結果ではないのかと今は思っています。

またうちの子は女子サッカーをしていて、「2時間で活動やめれば大丈夫、国が言っているから」と言われて活動していました。4、5月でしたが、昼上がった時に娘は鼻血を出しました。今まで鼻血を出したことがなかった子が毎日

3回も鼻血を出しました。でも、家を建てたばかりだし、子供たちの友や自分の親や友を捨てることができず、主人も仕事があり離れられなかったのです。また自分たちでも除染をと、PTAで先生たちと中庭の除染作業を3、4回やりました。4マイクロ近い中を役員のパ母と男性の先生方と中庭の上層の土をスコップで取り、土嚢袋に入れ運ぶという作業です。やったあと必ず下痢をし、目がゴロゴロしました。

新米の時期が来て、震災後に作ったお米が学校の給食に出てきて、校長先生に「こども達に食べさせるんですか」と言ったら、「お弁当持ってきてけっこうです」と言ってもらえたので、お弁当、お茶を持たせ、牛乳は飲ませませんでした。周りから「大丈夫と言われているのに、なんでお弁当持ってくるの」と言われました。何かみんなと同じことをしないといけないという風潮は、今もあると思いますが、「危険なもの危険だ」と言えない状況がとても苦しかったです。岩手の実家から食材を送ってもらい、ペットボトルの水で過ごしていました。

2012年の2月頃、PTAと



学校、教育委員会との集まりがあり、「来年度から震災前の活動に戻しましょう。よろしいですか」と言われ、決を採りました。私は「反対です」と言えませんでした。あの時そう言っていたら何かが変わっていたかもしれないのにと本当に後悔しています。言わなかったために、結局外で運動会をしてプールにも入って、体育をする子供たちがいます。自分の子供たちだけが助かればいいのかと思っ、ずとずとと考えていたのですが、

助けられるのは親しかいないと避難することを決意しました。子供の友達がお別れのお泊まりに来たとき、この子供だつて助かる可能性があり、生きていく権利があるのか、どうして国は助けてくれないのか。大人は自分で選択できるのに、子供は大人の選択のもとでしか生きられない。だから娘の大切な友達も新潟に連れて来られなかったし、果たしてこの子たちが高校生から20歳になり、さらに結婚した時子供が産めるのかな、同じように顔を合わせられるのかなと思いました。

熱心に磯貝さんの話を聞く参加者

主人を残して子供と新潟に来て、水道から水を普通に飲め、子供たちが普通の生活させられるのが本当に嬉しかったです。また巻原発の話を聞いたとき、「大人が原発を止められたなんて、すごい大人がいたんだ」と感じしました。何かに反対するって難しいかもしれないませんが、それによりゆくゆく子供たちのためになる。今まで何もせず生きていた自分ですが、

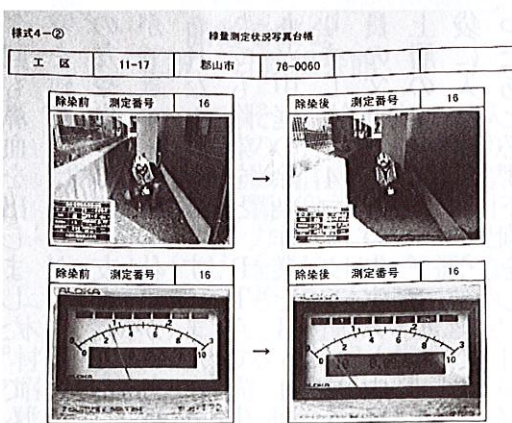
こうなつて今振り返って恥ずかしくない大人でいようと、子供たちに胸を張って生きられるように今活動しているところです。休憩後、鎌仲ひとみ監督の「カノンだより」が上映されました。監督が新潟に来て、磯貝さん取材された記録が含まれており、新潟での避難生活の思いが語られました。

アンケートでは、「原発の本当の怖さが伝わってきた。原発再稼働反対の声を上げ続ける」と、原発事故に対する評価、「親としての苦しい胸中が痛いほど分かった。声を上げて活動しておられることを尊敬します」と磯貝さんの苦悩に寄り添う意見、「テレビ・新聞などマスコミが事実を報道していないどころか嘘を垂れ流している」と政府の言うがままの報道に対する批判、などの記述に集約されました。(内山)

磯貝潤子さんから、当日の補足と現在の心境を手記の形でいただきましたので、提供していただきた写真とともに掲載します。

0・27↓0・09という数値が我が家の、とある場所の除染後数値でした。0・23マイクロナンベルトでチェルノブイリでは避難の権利が与えられていたはず。5年過ぎてても(半減期をとうに過ぎてても)避難の権利を求めるとは十分な数値で、それでいて除染したから大幅に下がるわけでもなく事故前の数値0・04前後にはまだ戻りません。

そこへ来年度借り上げ住宅終了の決定。本当に矛盾しています。オリンピックや経済成長よりも先にやらなければならない重大な問題のはずなのに、あたかも事故などなかったかのような国や東電の対応に腹がたちます。現在、経済的賠償を求めた集団



自宅の除染前後の放射線値

裁判が各地で起きていますが今日高崎地裁にてどこよりもいち早く結審します。

これからの裁判の指針となる重要な審判が、どうかわたしたち被害者を悲しませるものではありませんように。5年以上の不安定な生活から、少しでも前に進むことのできる判断が下されることを願ってやみません。

選挙運動に取り組んで

新潟は大きな柏崎原発を抱え、福島原発事故の避難者を多く受け入れている県として、日本の中でもとりわけ原発について県民が真

剣に考えることのできる選挙だったのではないのでしょうか。

巻に原発を作らせなかった、そんな県民の強い気持ちが根底にあった選挙だったと思います。そこに避難者である自分が関わられたこと、訴えが少しでも有権者へ届いたのだとしたら喜ばしいことだと思いますし、同じ失敗はして欲しくないという願いが新潟であれば叶えられそうな気がしています。

参議院選、新潟知事選と大きな選挙に初めて関わり、そして二度の勝利に沸きました。新潟での良識を日本の常識として、安保法や憲法改正そして原発再稼働など、



磯貝さん母子 (郡山の実家前で)

県民の意思を国へしっかりと示していくことのできる新潟県。そんな姿勢を自分の子供はじめこれからの未来を背負う子供たちに見て欲しいなと思っています。

「大人がちゃんと子供たちを守る、私の原点はそこにしかない。今までも、そしてこれからも——」

磯貝潤子

入会させてください

長岡支部 中俣裕子 (14)



企業を寿退職してからの勤続25年での退職です。あつという

間でした。今振り返るとさして目だった業績も残さず、まじめにやってきたと思います。教員生活ではめつたにないことですが、生徒の結婚式に呼ばれると喜んで出席しているこの頃です。

趣味は健康のため、水遊び程度の水泳と気分転換に音楽を聴きな

がらドライブする事です。有酸素運動と言える20分程度と北は青森から南は九州までいつか旅してみたいと考えております。『食文化』の旅と言ったところでいかが？楽しみは徐々にして行こうと思っています。

それにしても生活は困窮を極め、退職金を崩している次第です。

「これではだめだ！」と奮起し、農業センター主催の家庭菜園に挑戦し始めました。しかし、途端に藪蚊に刺され、通院した次第です。こんな生活や考えを巡らすと早3ヶ月が流れていました。皆さんは

どのように過ごされているのでしょうか？決まった目標のあるルールから出るとどのようになれるを敷いていいのか迷っています。こういう時こそ先生方のアドバイスを伺いたいと思っています。



加入のごあいさつ

長岡支部 坂井志郎(14)



1979年神奈川県立橋本高校から教員となり、5年後に新潟県に採用され湯沢高校に赴任し

以降、長岡商業高校まで地理・世界史を担当しつつ、神奈川では山岳部を創り、新潟では主に陸上競技(長距離・競歩)の指導など屋外での活動に精を出しつつ、生徒達からたくさんのエネルギーをもたらして現在に至っています。

この間に、家族旅行、学校行事を含め日本各地をめぐってきました。昨年、宮崎・鹿児島への旅行で、47都道府県すべてに足を踏み入れることになり、今後も国内を巡ってみたいと思っています。

また、ここ数年は畑を借りて野菜作りも始め、農薬を使わずにかつかなり適当な作り方で、体力維持に努めています。収穫したふぞろいの野菜たちを調理してくれる妻に感謝の日々です。

ところで、先日、参議院選挙での改憲勢力勝利は、今後日本の将来を大いに不安とさせる結果でし

た。そんな中、東北・信越の一人区で野党勢力が当選し(秋田を除く)少々溜飲を下げました。最近半藤一利氏の『幕末史』を読んだ影響かもしれません。明治以来の薩長勢力(官軍)による独善的・強圧的な政治が行われる懸念がいつそう強くなっています。原発問題、沖縄問題、教育、介護、少子化と不安は募るばかりです。

とりとめもなく雑文を書いてしまいました。新高退の支部または総会で懐かしい先生方の顔を見ることができ、これからの人生の励みになりました。皆様の足を引っ張らないように、今後ともいろいろご教示していただけると幸いです。よろしくお願い致します。

再任用を終えて

新潟支部 小宮山雅男(14)



1年間の再任用期間を終えて、このたび加入しました。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局から催促の電話をいただき、原稿を書いている今日、9月19日は「戦争法」の成立から1年だそうです。そういえば去年の今

頃は雨の西大畑公園にも行きました。新潟駅南口にも行きました。

再任用の1年が終わろうとしていた昨年度末に、初めてハローワークへ行ってみました。うら若き案内係の女性が、パソコンの順番を待つようにと指示してくれましたので、おとなしく順番を待ち、条件を入力して……「検索!」:「0」でした。幸いにもその直後に非常勤講師の声がかかって、今は週3日だけ働いています。

昨日夕方、買い物からの帰りのこと。車がちょうど我が家へ入る行き止まりの道路に左折した時でした。家の前で見慣れないグレーの乗用車が停車していました。「じゃまな車だ。」と思いながら、手で合図して少しよけてもらい、家の駐車場に車を入れました。玄関を開けた妻を手伝って、買い物車を車から降ろそうとした、その時、2人の男女が車から降りてきて、突然、「先生、わかりますか?」

「はい、わかりますねえだろー!」「ほら、△△町高校で1年の時の○○です。」「あ、わかる、わかる。」「じゃあ君は?」と、女性の方を向くと、彼が、「先生、

こいつ、同じクラスだった××ですよ。」「あ、わかるよ!」自分でも38年前の生徒の名前が出てきたことに安堵しながら、なぜ連絡もせずに、△△町からわざわざ新潟まで来たのか、今何をしているのか、そんな話を聞きました。

○○君は、ほんとにギターがうまくて、放課後はいつも音楽室わきの部屋で弾いていました。一度だけ私もギターを持って「天国への階段」のイントロを一緒に弾いた覚えがあります。××さんの方は、「明朗快活」をそのまま人間にしたような生徒で、いつも女子のまとめ役でした。○○君は東京で音楽関係の会社に勤めていましたが、50歳を機に退職して、ずっと温めてきた自分の音楽を世に送り出しています。今回は、新潟に来るついでに、私のところに寄って自作のCD3枚を届けてくれたのでした。彼がなぜ××さんと一緒なのか、そのところはまだ解明されていません。しかし、あの子たちももう50を2つ越したのかという感慨と、私のことなどを忘れずに来てくれたことのうれしさが入り交じった一日の終わりでした。

●戦争をした国の記憶(リレートーク/9)

「傷兵とともに空襲に遭って」①

香田 光 (83) (長岡支部)



1945 (昭和20) 年8月1日、長岡は米軍によって大空襲をうけました。私にとっては、長岡赤十字病院 (当時、舞鶴海軍病院長岡分院) に軍属の看護婦として勤務し、僅か10日目のことでした。配属された外科病棟には、前戦で負傷したり、その後幾度かの空襲に遭って転送されてきた海軍の傷兵さんが収容されていました。

その夜9時すぎ、空襲の警戒警報が出されたため、いつものように患者さんたちを地下室に避難させた後「今夜はいつもと様子がちがうようだ」という患者長に従い、当番数人で屋上へ状況を見に出ました。そのとき、激しい爆音のなかで宮内と蔵王の工場あたりに真赤な火柱が上がり、すぐに、ザアーツという夕立のような音、つづげざまにバリバリと異様な音が屋上にひびきました。

にせかされながら私も自分の担当患者を背負い外に出ました。病院の正面の通りは軒並燃え上っていたので裏の方から中島町の方へと走りつづけました。ずり落ちそうになる患者をせり上げながら辿りついた信濃川の堤防は、「お母ちゃーん、お母ちゃーん」と泣き叫ぶ幼な子の声や、名前を呼びかわす女の人の声が乱れあって、ゴツタかえしでした。

B29から灯油と焼夷弾が、ばらまかれて、街は忽ち火の海となり川面にさえ火が流れました。火に照らし出された草むらに小学生くらしいの男の子がたおれて呻いていて、家の人とはぐれてしまったと聞いても助けてあげることすらできませんでした。B29の編隊は波状的に迫って来て、機体が見えるほど急降下しては焼夷弾の雨を降らせました。私は患者さんを死なせてはならないと、夢中で被いかぶさって防ぐほかなすすべがありませんでした。

あけて2日、堤防に残してきた少年兵の遺体を数人で迎えに出かけました。長生橋から見る街は焼野原と化してまだくすぶりつづけており、病院は形だけとはどめていのように見えました。少年兵のなきがらは、炎天下にさらされて、堤防の草むらに一人ポツンと横たえられていました。私たちは悲しさと汗で力の抜けた手に担架を握って大島小学校に運び、他の病棟の亡くなった人といっしょにして懇ろにとむらい、信濃川の中洲で茶毘に付したのでした。

大島での生活は本当に辛いものでした。運動場の床に白布一枚で寝かされ、夜は私たちもそのかわらに寝ました。用便は汲み取り用の柄の長いひ杓の中で済ませ、捨ててきてはまた次の人にとり有様でした。警戒警報のたびに患者は屋外に連れ出され、B29の爆音が近づく

と分散して桑畑や雑草のかげに身をかくしました。爆音が遠のくと患者

もろとも、着のみ着のままの私たちは入浴がわり、洗濯がわりの水浴びをしました。

ある日、巡視の将校が来ました。たまたま患者の一人は脚の負傷のために、す早く立上って敬礼ができなかったため、その将校にいきなりなぐられました。海軍には「気合を入れる」と称して、精神棒なるものでなぐられ、気絶すると水をかけてまたなぐると聞いていましたから、この程度は日常茶飯事かも知れませんが、明日の命もわからない状態の中で目撃したこの光景に私は非常にショックをうけました。

大島小学校でのいく日間かの後、

こんどは東山の方に10キロほど離れた栖吉村 (現、長岡市) に移動しました。ここでは爆音におびやかされることは少なくなりましたが、食糧はますます窮乏し、衰弱した患者にひとなめの塩を与えることすら許されませんでした。また誰もか風になやまされませんでした。(次号に続く)



囲碁大会報告

第24回新高退囲碁大会

Aクラスは佐野さんが優勝

9月8日、高校会館で新高退囲碁大会が開催された。今年度は、北プロ大会(高陽荘)まで、全てが新高退担当となるが、そのスタートの大会だ。

大会は、選手をAクラス(上級者)8人、Bクラス(中級者)8人に分け、9月15日の県大会に出場する選手を選抜。



Aクラス1位決定戦の様子

その結果、次の方々が出場権を得た。(○数字が順位、敬称略)

- 【Aクラス】①佐野達哉(上越)
- ②中島憲一(新潟)
- ③市川洋(新潟)
- ④笠原均(新潟)
- ⑤齋藤淳一(新潟)
- ⑥大木戸研二(佐渡)

- 【Bクラス】①鈴木信義(新潟)
- ②佐藤暢夫(新潟)
- ③有坂勝(三条・加茂)
- ④市橋昇(佐渡)

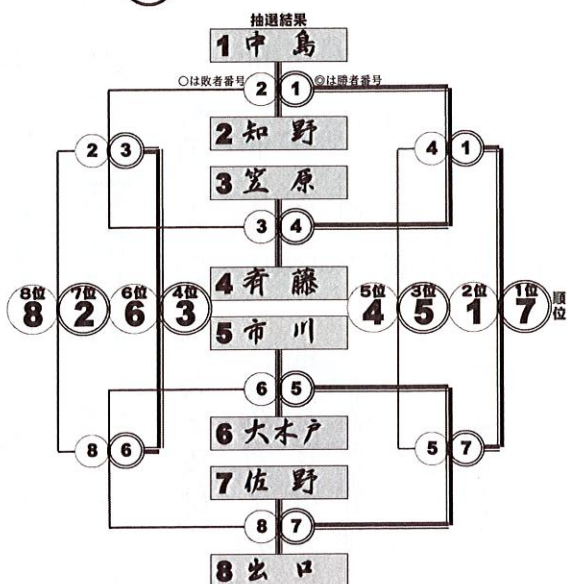
※左図は、今回から考案使用した、トーナメント表(なお、グループB藤巻さんは欠席のため、不戦敗扱い)

第24回 新高退囲碁大会

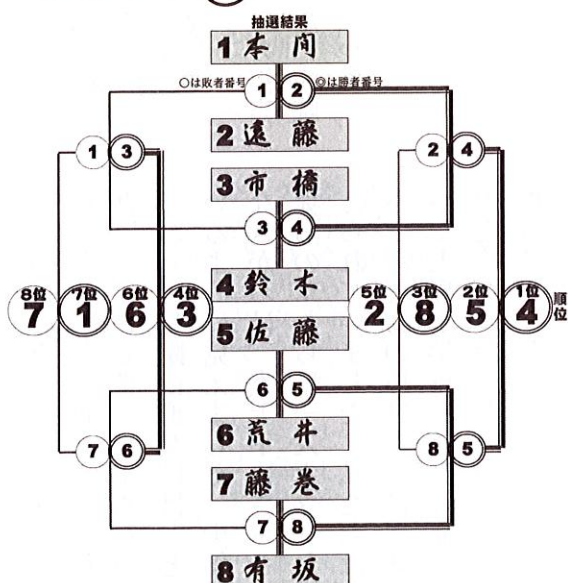
スイス式トーナメントによる組合せ表

2016.9.8(木)

グループ A・B



グループ A・B



第24回県退教囲碁大会

Aクラスは佐野さんが優勝し、北陸ブロック大会へ

9月15日には、県退職教職員囲碁大会(北陸ブロック大会予選)が高校会館において開催された。出場者は昨年と同様、新退教6人、新高退10人(内、1人欠)であった。A、Bの2クラス制で行われ、北陸ブロック大会には各クラスからそれぞれ新退教1人、新高退1人を決定した。

新高退出場者は以下の通り。
【Aクラス】佐野達哉(上越)
【Bクラス】鈴木信義(新潟)
【Cクラス】荒井一郎(上越)

北陸ブロック囲碁大会

今年度から、北プロ担当は新高退、会場は「高陽荘」に

「生きがい支援協会」主催の囲碁大会、北陸ブロック(福井、富山、石川、新潟)大会会場は昨年度まで石川県退教の好意で、金沢市で開催されてきた。

今年度から新高退が引き受けることとなったが、地理的状况から会場は上越市の「高陽荘」(今年度)とした。現地での準備や手配は、審判長も務めてもらった佐野達哉さんから全面的に協力を得た。他県参加者の急な欠席等を埋めるために、新高退から計6人が出場した。結果、Bクラス1位の大木戸研二、Cクラス1位の有坂勝、理事長推薦で佐野達哉の3人が11月17・18日に開催される全国大会に出場することになった。



新潟からの出場者

(内山)

COLUMN

県知事選を終えて

原発再稼働が最大の争点になった知事選で、野党と市民の統一候補、米山隆一さんが当選した。脱原発を願う県民の強い意志が表明された結果だ。NHKの出口調査によれば、その73%が原発再稼働に反対の立場であった。また、今まで新潟県では共産党推薦の知事が誕生したことはなく、相手側からこれでもかと「アンチ共産党」プロパガンダを駆使された中では、歴史的な選挙結果と言える。

相手候補は当初、余裕綽々で「俺が知事だ!」と言わんばかりの横柄な態度に終始していたようだ。また、安倍首相からにやにやしながら推薦状をもらったり、原発再稼働が争点となると、急に見え見えの曖昧な発言を始めたりした。これらの言動が敵失効果となり大差につながったのだろう。

県内の複数の大学教員が、「(新潟県知事選は)ワンイシューの選挙になったから、適任者が選出されなかった」というような趣旨の発言をした。自民党が常に経済を前面に出し、争点を隠して選挙を行い、選挙後に「議席を得たから信任された」と民意に反することをしてきたことをどう考えているのか。「違憲状態」の1票の格差是正も図られず、戦争法制定など違憲の法律が次々と作られ、憲法改悪が日程に上ろうとしているのだ。

しかし、近年、知事選では確実な変化が見て取れる。**滋賀県知事選**は「卒原発」を掲げた三日月大造、**沖縄県知事選**は「基地建設反対」を訴えた翁長雄志、**玄海原発**などが争点になった**佐賀県知事選**では山口祥義、**鹿児島知事選**では川内原発の再稼働反対の三反園訓、そして、**新潟県知事選**で「柏崎刈羽原発の再稼働認めず」の米山隆一の各氏がそれぞれ自民系候補に大差をつけて当選した。地元で喫緊の課題が争点となった選挙では、それぞれの県民の意思が選挙結果に直結している。

柏崎刈羽原発再稼働阻止の取り組みは米山知事当選の選挙で終わったのではなく、原発の息を止めるための闘いはこれからだ。柏崎刈羽原発運転差止め訴訟、見える形での米山知事サポートなど新高退もできることをやっていく。

内山正知

『活動日誌』・点描

■ 原水爆禁止県民集会(7月23日)「核も戦争もない平和な21世紀に」として被爆71周年県民集会・於弁天公園。高校生平和大使(糸魚川白嶺高校・渡邊未鳩さん)のスピーチ。支援カンパが渡される。集会後、会場から古町・東堀通までデモ行進 ■ 事務局会議(7月27日)『通信124』について ■ 『通信124』編集会議(全体構成)(8月3日) ■ 柏崎刈羽原発差止め訴訟・第16回口頭

弁論(同日)「立証責任、判断枠組み論について」、「既認で採用実績のない耐震評価手法について」、「被告準備書面に対する反論」など ■ 『通信124』編集会議(初校)(8月10日) ■ 第3回憲法学習会(8月23日)テーマ「PKO駆けつけ警護」、講師・東京新聞記者 半田滋さん『集団的自衛権で日本を滅ぼしてもいいのか』(共著) ■ 『通信124』編集会議(再校)(8月24日) ■ 会員名簿の作成(8月28・29日)3年毎に作成、今回は高教組の印

刷機で作成。 ■ 『通信124』発行・発送(9月1日)「福祉学習講座」・「研修旅行」のチラシを同封。 ■ 日退教「2016年度組織現況・実態調査」提出(9月2日) ■ 会員数毎年減少、今年は800人台に。昨年同様に原発・沖縄に関する取組の調査有り。 ■ 県退職者連合第1回幹事会(9月5日)名称変更後初の幹事会。連合新潟の知事選意向 ■ 事務局会議(9月7日)翌日の新高退囲碁大会準備。 ■ 第24回新高退囲碁大会(9月8日) ■ 「第7回立憲主

義と憲法9条をまもる新潟県民の集い in 新発田」(9月11日)講師・中野晃一上智大教授。「非立憲的改憲は許さない 参院選の結果と限界を踏まえて」。新しい市民運動の広がり、野党統一の知事候補実現を強く訴える ■ 事務局会議(9月14日)翌日の県退職者連合の準備。福祉学習講座、研修旅行の取組状況の確認 ■ 第24回県退職教職員囲碁大会(9月15日) ■ 事務局会議(9月21日)「研修旅行」参加申込者15名、実施決定 ■ 日退教ブロック代表者

会議(9月26日) 木村会長出席
 ■地公3単産・地公退高齢者集会
 (9月27日) 日本教育会館。講師・孫崎享さん ■全国退職者連合高齢者集会(9月28日) 東京・文京シビックホール ■第23回福祉学習講座(9月29日) 講座の名に該当するか若干心配。当日は知事選の公示日。新高教は米山隆一候補を推薦。新高退も現退一致で取り組む ■事務局会議(10月5日) 生涯学習委員会企画の総括、北陸ブロック囲碁大会の準備 ■生涯学習委員会(同日) 研修旅行の準備 ■北陸ブロック囲碁大会(10月6日) 今年から新潟県で開催 ■研修旅行「酒田・鶴岡をたずねる旅」(10月12・13日) 天候不順が続くなか、何とかの空模様だ。庄内地方は本当に見るところ多し ■新潟県知事選挙投票(10月16日) 米山隆一さん当選。原発再稼働にノーの結果 ■事務局会議(10月19日) 北陸ブロック囲碁大会の総括、研修旅行の総括などに「一会の幟旗」を立てての参加。新潟市役所前の噴水広場で集会、古町までデモ行進 ■第4回憲法学習会(10月28日) 講師・金沢大准教授の石川多加子さん(石野)

※告知等

◆佐藤利夫さん、日報文化賞受賞
 退職者の会の佐渡支部会員で、佐渡研究者の佐藤さんが、「新潟日報文化賞」(社会活動部門・個人)「長年にわたるフィールドワークを通じて佐渡の文化の調査研究と普及活動」で表彰を受けました。

◆「熊本地震」日退教会員被災者支援カンパのご報告②
 日退教集約では合計が約470万円、新高退はその10・56%の約50万(送金手数料等を除く)という結果でした。大きな協力を組織名を挙げて感謝されました。

◆野村三十市さん、永眠される
 通信No.123、124で「戦争をした国の記憶(リレートーク)」の掲載をお願いした野村さんが9月13日に90歳で永眠されました。これまでのご協力に感謝し、ご冥福をお祈りします。

編集☆集☆後☆記

研修旅行、山形県庄内地方を訪れたが、酒田、鶴岡とも歴史豊か

な町で何度訪れても見所がある。かんぽの宿「酒田」は部屋もきれいで使いやすく、料理も美味しく高評価。羽黒山トレッキングは、多くが参加して、参加者の健脚ぶりが表れる。

高齢者集会、孫崎享さんは、T P Pに関する話で、マスクミが語らない、憲法すら吹っ飛ばす治外法権のI S D条項の危険性を中心に話された。また、外務省国際情報局局長の経歴がある氏は、集団的自衛権行使で何が起きるかなどについても具体的に話された。

福祉厚生委員会企画の講演会、今年には福島からの避難者、磯貝潤子さんのお話を聞く会に。未曾有の核事故に直面した県民の右往左往、自分の子供が目に見える被害が受けるに至り、夢を叶えた新築のマイホームを捨てて避難したことなど、話す磯貝さんには無念さに涙がこぼれた。

新会員からのたより、新規加入者全員から原稿をいただいた。今までにない協力を感謝する。

リレートーク、敗戦後70年を翌年に控え、「もう次回はできない」との思いがあり、No.116で、まず当時の編集委員、旭祐善さんからスタートした。その後も、具

体的な戦争体験を書ける方を探しながら、藤田是さん、中野弦さん、井口國一さん、飯塚良彦さん①②、野村三十市さん①②と掲載を続けてきたが、今号が9回目(7人)となった。あと2回は掲載予定があるが、その後の予定は立っていない。書ける方は是非お申し出を。
 囲碁大会特集、今回、だれでも簡単に間違いなく記入できるトーナメント表を考案使用したが、分かりやすいと好評だった。(内山)

会員計報

謹んで哀悼の意を表します。

石黒 恭博さん (新潟支部) 75歳

高津 雄造さん (新潟支部) 85歳

丸山 公夫さん (上越支部) 73歳

野村三十市さん (長岡支部) 90歳

工藤 洋介さん (魚沼支部) 80歳

宮島 孝さん (三条・加茂支部) 84歳

(三条・加茂支部) 11・22